

聖書日課 『からし種』 2024.9.22-9.29

<p>9月22日 (日)  エレミヤ 41章</p>	<p>「イシュマエルに捕らえられていた人々は皆、カレアの子ヨハナンと軍の長たちの姿を見て歓喜した」(13節)。エルサレムが陥落し、バビロンが立てた総督ゲダルヤが暗殺される混乱の中で人々はヨハナンたちに希望を抱いた。しかし人間的な希望と神が与える希望の違いが示されていく。主日の今日、神が指し示される希望を見いだしていく信仰をいただきたい。</p>
<p>23日 (月)  エレミヤ 42章</p>	<p>「良くて悪くても、我々はあなたを遣わして語られる我々の神である主の御声に聞き従います」(6節)。このようにエレミヤに誓ったヨハナンたちだったが、エレミヤが彼らの思いと「正反対」の内容を告げると「それは偽りだ」と非難し始めた。私たちが「自分の背中を押してくれる言葉」を聖書に求めているだろうか。主のみ声に聴き従うことの厳しさを覚えて。</p>
<p>24日 (火)  エレミヤ 43章</p>	<p>「こうして、カレアの子ヨハナンと軍の長たちすべて、および民の全員は、ユダの地にとどまれ、という主の声に聴き従わなかった」(4節)。ユダの地にとどまればバビロン王の憤りを受けて命はないとヨハナンたちは考えた。常識的な判断だと思ふ。しかし私たちの常識を超えた恵みを備えたもう主への信仰が今日問われているとしたら…さてわたしはどうする？</p>
<p>25日 (水)  エレミヤ 44章</p>	<p>「そのときエジプトへ移って寄留したユダの残留者はすべて、わたしの言葉か、彼らの言葉か、どちらが本当であったかを悟るであろう」(28節)。ユダの残留者たちはエレミヤが告げた主の言葉に逆らってエジプトに赴く。不本意ながら同行してその滅びを見届けていくエレミヤ。主の言葉に仕える厳しさ。しかし最後には皆が主の真実を知ることになる。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.9.22-9.29

<p>26日 (木)</p> <p>エレミヤ 45章</p>	<p>「しかしあなたの命はあなたの行くすべての所で、ぶんどり物としてあなたに与えると主は言われる」(5節:口語訳)。エレミヤが語る主の言葉を人々に取り次ぎ続けたバルクは「ああ、災いだ。主は、わたしの苦しみに悲しみを加えられた」(3節)と涙した。どれほど苦しかったことだろう。そのバルクに主は約束する。主があらゆる敵と戦い、バルクの命を守ると。</p>
<p>27日 (金)</p> <p>エレミヤ 46章</p>	<p>「わたしの僕ヤコブよ、恐れるなと／主は言われる。わたしが お前と共にいる」「わたしはお前を正しく懲らしめる。罰せずにおくことは決してない」(28節)。「正しい懲らしめ」とは「歪んだ部分を修正すること」。的外れで神の恵みを見失った私たちの信仰が正されること。私たちを正しく神の恵みに導いてくださる十字架の主の「共にいる約束」を心から感謝。</p>
<p>28日 (土)</p> <p>エレミヤ 47章</p>	<p>「災いだ、主が剣を取られた。いつまで、お前は静かにならないのか。鞞(さや)に退き、鎮(しず)まって沈黙せよ」(6節)。ペリシテに対する主の預言。主なる神が剣を取ることに、新約聖書の福音に生きる私たちは戸惑う。「剣を鞞(さや)に納めなさい」と語る主イエスを私たちはいただいた。主の祈りを受けて「鞞に退き、鎮まる祈り」をいただいでいこう。</p>
<p>29日 (日)</p> <p>エレミヤ 48章</p>	<p>「モアブは破れ／叫び声がツォアルにまで聞こえる。ルヒトの坂を泣きながら上る声／ホロナイムの下り坂で、滅びの苦しみに叫ぶ声が聞こえる」(4-5節)。戦火の中、苦しみの声が各地で上がる。「業(わざ)と富に頼った(7節)」人からも、そんなものに与れなかった人からも。主はその声に「笛のように嘆き(36節)」、私たちにもその声を聞かせられる。</p>